

第5回史跡小牧山整備計画審議会会議録

日 時：令和3年5月28日（金） 午後1時15分～午後2時30分

場 所：小牧市役所 東庁舎4階 本会議用控室

出席者：〔委 員〕池田委員、川島委員、宮田委員、坪井委員、富嶋委員、倉知委員、
水野委員、三輪委員、駒瀬委員、竹内委員、笹尾委員

〔事務局〕中川教育長、伊藤教育部長、石川教育部次長、武市小牧山課長、
浅野史跡係長、小野専門員

傍聴者：なし

【事務局（武市課長）】

それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和3年度 第5回 史跡小牧山整備計画審議会を開催させていただきます。皆様におかれましては、本日は、大変お忙しい中、ご参加をいただきましてありがとうございます。

会を始める前に、ご報告をさせていただきます。本日、駒瀬委員が途中で退席されるご連絡をいただいております。そのほか、欠席者等はございません。

また、本審議会は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、会議を公開とさせていただきます。

本審議会の議事は、音声録音させていただきます。議事録は、発言内容、お名前とともに市ホームページにて公開させていただきますので、ご了承お願いいたします。

資料の確認をさせていただきます。

さきにお送りさせていただきました資料は、次第、資料1-1から3、資料2-1から3までであります。不足等ございましたらお申出いただきたいと思います。

また、机上に、次第、史跡小牧山整備計画審議会条例、本審議会委員名簿を置かせていただいております。差し替え、追加をお願いいたします。

さて、本審議会につきましては、条例に基づき委員の任期を2年とさせていただきます。前期の任期が令和3年4月30日に満了したことに伴いまして、今回改めて皆様に委員をお願いさせていただきます。新任期は令和3年5月1日から令和5年の4月30日までの2年間となりますので、よろしくをお願いいたします。

本来であれば、任命状については交付式を執り行うところでございますが、本審議会におきましては机上への配付をもって代えさせていただいておりますので、ご了承いただきたいと思います。

それでは、初めに教育長の中川からご挨拶を申し上げます。

【事務局（中川教育長）】

改めまして、皆さんこんにちは。

本日は、本当にお忙しい中、史跡小牧山整備計画審議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、平素より本市の小牧山整備事業にご理解、ご支援を賜りまして、重ねてお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、今回新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、本会の目的と小牧山の整備状況につきまして、簡単ではございますが、私からお話をさせていただきたいと思います。

本審議会におきましては、史跡小牧山の整備及び管理に関する計画につきましてご審議いただくために設置しているものであります。

小牧山の整備につきましては、これまでも小牧市歴史館の周辺、山頂部でございますが、主郭地区の発掘調査の成果に基づきまして、今年度以降5か年をかけて織田信長築城時の石垣の復元整備などを行う予定であります。整備完了後には、園路に沿って山頂にめぐらせた石垣をご覧いただける計画になっております。市民の皆様をはじめ、多くの方々に小牧山の魅力をより伝えられるものになっていくものと私は期待しております。

本日の審議会では、議題が1件、報告が2件ございます。議題につきましては会長、副会長の選任、報告といたしましては昨年度の実施事業と今年度の事業計画となっております。

昨年度には、石垣復元整備を進めるため、大手道と交差する場所から山頂までの間の園路を作業道として使用できるように、アスファルト舗装工事を行いました。また、桜の馬場屋外トイレの改修工事も行いまして、市民の皆様により快適に小牧山をご利用いただけるようになったところであります。

これらの整備後の様子につきましては、会議終了後に実際にご覧いただく予定になっております。また、現在実施しております創垂館の保存修理現場の視察も予定しておりますので、よろしく願いいたします。

この後、委員の皆様方の忌憚のないご意見が頂けることをお願い申し上げまして、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。この後、よろしくお願いいたします。

【事務局（武市課長）】

それでは、ここで委員の皆様から自己紹介をいただきたいと思います。
名簿の順番にて、池田委員よりお願いいたします。

【池田委員】

池田と申します。よろしくお願います。

文化財審議委員会のほうから来ております。そして、今、仕事は名古屋造形大学で美術史を教えております。よろしくお願いいたします。

【川島委員】

こんにちは。小牧市文化協会の理事長を務めております川島公子と申します。よろしくお願いいたします。

【宮田委員】

小牧地区の区長会の会長を務めさせていただいております宮田と申します。よろしくお願います。

【坪井委員】

小牧市商工会議所の専務理事の坪井でございます。よろしくお願いいたします。

【富嶋委員】

小牧市立一色小学校で校長を務めております富嶋明人といいます。市立小中学校代表として参りました。よろしくお願いいたします。

【倉知委員】

小牧市女性の会副会長をやっております倉知日出美といいます。よろしくお願います。

【水野委員】

社会教育委員を務めさせていただいております水野嗣則といたします。よろしくお願いいたします。

【三輪委員】

一般社団法人小牧青年会議所の三輪直慶と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【駒瀬委員】

こちらからは、3名が市の職員ということで、まず私です。小牧市役所の市長公室の次長をしております駒瀬勝利といたします。よろしくお願いいたします。

本日は、大変申し訳ありませんが、途中で退席させていただきますので、よろしくお願ひします。

【竹内委員】

失礼いたします。

同じく、地域活性化営業部の次長をしております竹内隆正と申します。よろしくお願いいたします。

【笹尾委員】

この4月から都市政策部の次長として参りました笹尾といたします。よろしくお願いいたします。

【事務局（武市課長）】

ありがとうございました。

続きまして、事務局職員の紹介をさせていただきます。

【事務局（中川教育長）】

教育長の中川でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局（伊藤部長）】

教育部長の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（石川次長）】

教育部次長の石川と申します。どうぞよろしく申し上げます。

【事務局（武市課長）】

小牧山と文化財の所管をいたします文化財課・小牧山課長の武市と申します。よろしくお願ひいたします。

【事務局（浅野係長）】

小牧山課史跡係長の浅野と申します。よろしくお願ひいたします。

【事務局（小野専門員）】

小牧山課専門員の小野と申します。よろしくお願ひいたします。

【事務局（武市課長）】

それでは、次に次第2. 会長、副会長の選任に移らせていただきたいと思います。

お手元にございます本審議会条例の第5条に、審議会に会長及び副会長に1人を置き、委員の互選によりこれを定めるとございます。

会長の選任につきまして、どなたか立候補、ご推薦がありましたらお願ひいたします。

【竹内委員】

よろしいでしょうか。

会長さんですけども、よろしければ池田委員に引き続きお務めいただくのがよろしいかと思ひますけど、いかがでございましょうか。

(異議なし)

【事務局（武市課長）】

ありがとうございます。

それでは、引き続き、副会長の選任につきまして、どなたか立候補、ご推薦がありましたらお願ひいたします。

【池田会長】

昨年度は校長会代表の藤岡委員でしたので、今年もそのまま、校長会の代表の富嶋委員にお願いできればありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

(賛成)

【事務局（武市課長）】

ありがとうございます。

それでは、今のご発言によりまして、会長に池田委員、副会長には富嶋委員ということでお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

席のご移動のほうをお願いいたします。

(席の移動)

【事務局（武市課長）】

それでは、池田会長からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【池田会長】

本年度、また会長をすることになりました池田です。よろしくお願いいたします。

整備計画がここから5年間で小牧山の山の上のほうの新しい姿が見えるというのが本当に楽しみです。ぜひともそれがうまく円滑に進むように、この審議会でバックアップをしていきたいと思っております。

取回しが下手ですけど、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（武市課長）】

ありがとうございました。

【事務局（武市課長）】

それでは、次第3の報告に移ります。

以下の議事進行は、池田会長、よろしくお願いいたします。

【池田会長】

次第3の報告（1）を、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【事務局（小野専門員）】

報告（１）昨年度の実施事業について、担当よりご説明させていただきます。

昨年度の実施事業、各６点につきまして順次、上からご報告をさせていただきます。

資料１－１をご覧ください。

こちらは昨年度実施しました史跡小牧山主郭地区第１３次発掘調査でございますが、成果資料の紙のものを１部つけさせていただいております。これから皆様には、その成果を１０分ほどの発掘成果の記録にまとめた映像がございますので、こちらをもってご報告とさせていただきますと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

(映像)

【事務局（小野専門員）】

昨年度の調査は、小牧山の小牧市歴史館を挟んで東西の斜面で行っております。こちらが西側の斜面、こちらが東側の斜面、もと屋外のお手洗いがあったところです。

こちらが西側の斜面のところですよ。

桜の園に抜けていく階段の道に沿った部分の斜面のところ、以前の調査で向かい側にこのように石垣が確認されておりました、その向かい合わせになる石垣が残っているのではないかという予測が立ちましたので、こちらの部分を調査させていただいております。これが調査前、調査を進めていくと順次、昔の地表面がこのように現れてまいります。

方向を変えて、同じく調査前から順次、地表の土を取り除いていき、お城があった当時の地面を探していく調査です。

地表の土をめくっていきますと、このように一面に石が出てきました。そして、さらに土をどかしますと、このように一列にきれいに並んだ石垣、当時の石垣が姿を現しております。ほとんどの石は小牧山で産出された石です。

現在の園路より少し道を振っているのではないかなということが推定できます。少し映像が悪くて申し訳ありません。

続いて東側、もと東側に位置していた屋外のお手洗いが建っていた部分になります。調査前がこのような状況、順次地表面の土を取り除いていきますとこのような状態、方向を変えております。斜面の部分はこのようなになっています。

こちらの部分、東側の出入り口が、当時あったのではないかと推定されている周辺でして、このあたりでは上下2段の石垣、そしてその下の斜面ではさらにもう1段の石垣があったことが確認できました。今回の調査では、このように石垣がきれいにずらっと並んでいる状態が確認できております。

これは2段目の石垣に相当する部分です。石垣のように見えないのですが、非常におもしろいのですが、これも石をきれいに組んで、隙間なく組み上げて壁のようにしている。これは小牧山の今までの石垣の中でも非常に特殊な事例だなというのが新しい発見です。

加えて、こちらずらっと全部丸い石が敷き詰められている状況が今回の調査で大きな成果として上げられたものです。丸い石は河原でしか取れない石ですから、山の上に意図的に人間が運び上げて敷き詰めたということが言えるわけですが、石垣がここにありますがけれども、その前に一面にこのように丸い石だけを選別して、しかも面をちゃんと上にそろえるであるとか、粒をそろえるようなことをして敷き詰めている、玉石を敷き詰めるというよりは、何か空間構成をするという意図的なもの。さらには、このように意図的にまたこのように大きな石を立てて据えているという状況。これ、据えるために介石が見つかっています。

これまでの調査では、小牧山城で2か所玉石敷きが見つかっています。このように石垣の前に敷き並べたものと、信長館と推定される場所の建物の周辺に敷き詰められていますが、今回の場合は建物の礎石も見つかりませんでしたし、幅も非常に広いということが特徴です。

同じ位置から順次土が取れていく様子を見ています。最後にこの山が取れます。今取りかけていて、こちらが全て広い空間になるということもわかりました。

これが、さらにその下の斜面の部分を調査しているところです。順次このように配石を見ながら掘り進んでいきます。その山がなくなると、このように見晴らしのいい、石がごろごろした状態が見えていただけます。

今回の調査で、斜面まで調査区を延ばしている部分では3段目の石垣、かつて7次調査で出た石垣の続きに当たると推定できる石垣のラインが、非常に良好な状態で見つかっております。

この部分は山の東側に当たりますので、かつて北側で見つかった7次調査の3段目の石垣からいくと、北から東に向けてずらっとほとんど途切れることなくこの3

段目の石垣が続いていることが推定できるようになりました。これも今回の調査で明らかにできたことの1つです。ここで石垣がこのように見つかりました。これが3段目ですね。

調査前の斜面、非常に急ですけれども、それを取り除くともうすぐ、皮一枚下で石垣が見えるということで、山のあちこちに恐らく皮一枚下にこういうふうな石垣がまだ眠っている可能性はそこかしこにあるのではないかなと推定できます。

整備に際しての調査状況を確認していただくために、専門委員会の先生方にはこのように現地での確認もその都度お願いして、ご指導いただいているところです。

今回、現地説明会というのは、残念ながらコロナの関係で見送らざるを得なかったのですが、その代わり、埋め戻しの直前には現場公開というのを開催いたしました。平日3日間ほど開催しましたが、通して600名ほどのお客様に来ていただけましたので、非常に関心が強いということを改めて感じさせていただきました。

埋め戻しに関しましては、このように石垣の周りは土嚢で養生し、ここまで掘ったよというのを青いテープで示した上で、発生した土砂で再度埋め戻しをしております。これは、将来の整備において、どこまでが掘れる、さわられるかというのを示す、間違えてそれ以上掘ってしまうようなことがないように、史跡を守るための保護措置です。

この東側の斜面での成果としては、玉石敷き、そして立っている石は庭石として考えられるということで、もしかすると枯山水というものに相当するような庭園的空間がこの部分に設けられていたのではないかと推定できるようになってまいりました。

古文書にも、信長のときに新しいお庭に関する記述があったりしますので、ここがその場所だということではありませんけれども、小牧山城にお庭があったということを示す重要な成果の一つであると推定できます。

以上が発掘調査の成果でございます。

【池田会長】

ありがとうございました。

ただいまの内容について、よくわからないとかございましたら今お聞きしてください。特になかったら、最後にまとめて伺うという形にしたいと思いますので、今どうしてもという方はお願いします。よろしいですか。

それでは、そのまま引き続いて次の、2番目のところで、今年度の事業計画について説明を事務局よりお願いします。

【事務局（浅野係長）】

その前に、（１）の昨年度実施事業があと残り５個ありますので、順次説明させていただきます。

続きまして、二つ目になりますが、小牧山城史跡情報館周辺（管理道部分）整備実施設計についてご説明をさせていただきます。

資料は資料１－２の①、前の画面にも同じものがついてございます。

今回の整備実施設計を行ったところの対象地につきましては、市役所の旧本庁舎として整備した部分ですね。前の図面で、ここが市役所の本庁舎があったところですね。ここと、あそこ、れきしるこまきがありますけれども、れきしるこまきを作ったときに整備した新しい道ですけども、ここに挟まれた、赤い点線で示した部分が今回整備した部分、実施設計を行った部分になります。赤い破線で囲った部分の約３,０００平米の範囲になっております。この部分につきましては、平成２８年度と令和元年度に発掘調査を行い、土塁と堀を確認しております。この調査成果に基づいて、土塁と堀の遺構復元を行うための実施設計を行いました。

市役所の旧本庁舎として整備したときに作りました木階段、ちょうどここですね、市役所のところ、この部分に木の階段を整備しました。ここにつきましては現在は通行止めになっておりますけれども、この整備によって復元する堀を渡って新しい管理道に結ぶように整備を予定しております。これによりまして、市役所の旧本庁舎から階段を渡って、橋を渡ってれきしるこまきへ、あるいは小牧山の東側へより近く行けるようになったかと思えます。

また、一番南側の歩道との接する部分につきましては、復元した土塁や堀を観察するエリアを設けて、説明板を設置する予定をしております。この整備によりまして、一部でありますけれども、小牧・長久手の戦いのときに築かれた山麓を巡る二重の土塁と堀、それが赤色立体図というものですけれども、今現在の小牧山ですけども、ここがもともとの旧市役所があったところ。これが土塁で、堀があって、こちらにも土塁がありますけれども、この道が旧の管理道、これが新しい管理道になります。この土塁は下側の遺構、山側の土塁がこう来てこう行ってつながりますけれども、この土塁と堀を旧の管理道で分断されてしまっている状況になります。ですので、この部分を整備によって土塁と堀、また土塁がつながるようになりますので、小牧・長久手の戦いのときに築かれた、小牧山を取り巻くような二重の土塁を整備する予定をしております。

整備の時期につきましては、後ほど、整備スケジュールのところでご説明させていただきますが、令和4年度の工事を予定しております。

説明につきましては以上になります。

【事務局（小野専門員）】

続きまして、主郭地区第1工区整備の実施設計について、担当の小野よりご報告をさせていただきます。

こちらの前の図をご覧ください。

山頂の部分をこのように赤い区切りの線で分けて、5つのパーツに分けさせていただいております。

山頂を含む中腹から上の部分を主郭と申しまして、後ほど、スケジュールのところ全体図等をお示しして説明させていただきますが、山頂のことを主郭と言っています。主郭の中心には小牧市歴史館があるわけですが、その主郭を中心に5つのパーツに分けて、それぞれ第1工区から第5工区までの名前をつけさせていただいているもののうち、昨年度はこの西側に当たります第1工区の整備をするための実施設計を行わせていただきました。

具体的には、お手元の資料の図4にもございますが、同じ図面を前のプロジェクターにも投影させていただいております。このような図になりますという全体図をお示しさせていただいております。

簡単に言いますと、こちらの部分の主郭をめぐる二重の石垣と、3段目の、先ほどちょうど映像でも出ていましたけれども、掘ったところの石垣が出ておりますので、都合3段の石垣を復元整備させていただく予定でおります。

この部分は、西側から階段で上がってくる部分の、園路も一部含むような形になっておりますので、茶色く塗らせていただいている部分が園路、曲輪という部分、皆さんが歩いていただく部分になります。緑色に塗らせていただいているところが斜面、法面になりまして、石垣ですとか下の復元ですとか、その分の斜面を植栽で整備させていただくエリアになります。

今回の該当部分には、山頂部には御野立聖蹟碑という、昭和2年に当時の昭和天皇が陸軍大演習でこちらに来られまして演習を統監された際にこの場所に立たれたということを記念して建てられた石碑がございます。それは、原位置をそのままに置かせていただく中で、その石碑を囲んでいる、庭石的に使っている石というのが実は一部、恐らくは石垣の石材で転落していたものだと思うのですが、再利用、再転用されているものがございますので、そういったものを最小限取り除きまして、

建つ位置は一緒ですけれども、石の囲いを縮小というのですか、コンパクトに、すっきりするという作業も今回の実施設計の中では見込んでおります。

実施設計の報告としましては以上です。

【事務局（浅野係長）】

続きまして、桜の馬場屋外トイレの改修工事についてご説明させていただきます。資料は資料1-2の③になります。

桜の馬場の屋外トイレですけれども、小牧山城の正面玄関はここにあります。大手口から上って大手道を上がっていく途中、ここに桜の馬場とございますが、この位置にあるトイレであります。

このトイレにつきましては、昭和57年に建設がされまして、老朽化が進んでいる、また狭い。それから多目的利用ができないということがございましたので、トイレの南側にありました四阿とともに撤去し、その跡地に新たに建築をいたしました。会議の終了後にまた現地にてご視察をしていただきますので、よろしく願いいたします。

以上になります。

【事務局（小野専門員）】

続きまして、④作業道の整備工事についてご報告をさせていただきます。

こちらの図で赤い線でお示しさせていただいている部分の園路が旧の管理道ですけれども、車両が通行できる唯一の山中の道路になっております。この部分、今年度から実施を予定しております主郭地区の5か年に及ぶ整備工事の前準備としまして、石材を吊り上げるための大きな車両も通行することになりますので、それらの工事車両の通行に耐えるような路床を持った舗装道が必要になりまして、この部分、延長840メートルにつきまして、昨年度中に舗装工事をさせていただいたものになります。

史跡内ということで景観にも配慮しまして、アスファルトも通常のアスファルトではなく脱色アスファルト、別名自然色アスファルトとっておりますが、景観になじむような特殊な仕様のアスファルトを使用させていただいております。

この部分は、工事の期間でない場合には、当然一般の方の歩行でのご利用もしていただくことができますし、今までの岩や石がごろごろしている状況よりは非常に歩いていただきやすい状況になったのではないかなと考えております。

【事務局（浅野係長）】

続きまして、創垂館保存修理工事についてご説明をさせていただきます。

資料は1－3となりますが、よろしくお願ひします。

創垂館につきましては、今現在は青年の家の東側にございます。もともとは山頂、歴史館のすぐ西側の下に建っております。

創垂館の保存修理工事につきましては、創垂館は明治21年に小牧山山頂西側曲輪のこの部分に、愛知県の迎賓館的な施設として建設をされました。翌年、小牧山が再び尾張徳川家の所有になった後も、園遊会が開かれるなどの利活用がなされてきました。

昭和5年、創垂館は小牧山とともに尾張徳川家から当時の小牧町へ寄贈されましたが、次第に利活用がされなくなり荒廃が進みました。昭和24年現在地に移築され、小牧中学校の作法室として使用、また昭和39年には、創垂館西側に小牧市青年の家が建設されると、この附属施設として様々な利活用がされておりました。しかし、平成24年に実施しました耐震診断の結果を受けて、同年8月より創垂館の一般利用を停止しております。

創垂館につきましては令和2年3月に策定いたしました史跡小牧山の保存、管理、活用、整備、運営体制の整備の最上位計画になります史跡小牧山保存活用計画において、近代以降の小牧山の歴史を物語る歴史的建造物としてその歴史的価値を明示しております。このため、後世に小牧山の歴史を伝える建造物として、また、文化活動を中心に行う施設として令和4年度からの利活用の再開を目指し、令和3年1月から令和4年3月予定で、現在保存修理工事を行っております。

工事は、昭和24年に現在地に移築されて以後改築された部分を撤去し、原則として明治21年に山頂部分に建設された当時の姿に戻すこと。また、耐震性に問題があるとされた理由であります腐朽、老朽化した建物の建築部材を取り替える、それを目的としまして、部分的に解体、調査をしながら工事を行っております。

なお、工事に当たりましては、杭打ちですとか掘削を行わないなど、史跡へ悪影響を及ぼさない工法を選択し、実施しております。

工事内容の詳細につきましては、本会議の終了後、現地視察におきまして、名古屋工業大学名誉教授で創垂館保存修理研究アドバイザーの麓和善先生にご説明をしていただく予定でございます。

資料の裏には、参考として年表がつけてございます。

以上で、（1）昨年度の実施事業について報告を終わります。

【池田会長】

ありがとうございました。

何か、今までの報告、説明のところでお尋ねしたいことがございましたらお願いします。

【笹尾委員】

1つよろしいですか。

ちょっと教えてほしいですけど。作業道路で5か年の工事のために舗装の整備をしたという部分は、5年後はそのまま残りますか。

【事務局（小野専門員）】

作業道につきましては、5年後もそのまま存置をさせていただくという、現状そのような計画でおります。

【笹尾委員】

ありがとうございます。

【池田会長】

よろしいでしょうか。

【宮田委員】

大体私、毎朝7時頃に小牧山を上るのですが、冬場、アスファルトになってから凍ったときは滑るんですよ。ひやとしたことが何回かあるので、何かその対策というか、何かできないでしょうかね。何か敷物を敷くとかね、冬場。今は倒木の注意書きは書いてあるんですけど。アスファルトになってからほんと、凍っちゃうと滑るんですよ。冬場だけですけど。

【池田会長】

事務局、何かありますか。

【事務局（小野専門員）】

作業道の冬季の凍結等に関する注意喚起につきましては、今後検討した上で、皆さんの安全に注意を払いたいと思います。

【宮田委員】

もう1点よろしいでしょうか。

先ほど見せていただいたDVDは、図書館とかどっかに置いてあって見られるのでしょうか。

【事務局（小野専門員）】

まだこれできたばかりでして、まだお配りとかもできないですけど、まずはこの後、市のユーチューブに上げさせていただいて、今までの過去の調査も全てそうですけれども、どなたでも閲覧できるようにはさせていただいております。

また、れきしるこまきの映像展示の中にも、過去の調査、今のDVDも全部つながっているものが、現状多分2、3年前までのものがつながっておりますので、随時、調査があつてこのような形になったものは付け足していくという形で皆さんに共有させていただいております。

【宮田委員】

ありがとうございました。

【池田会長】

ほかにはないですか。

【川島委員】

創垂館のことでちょっとお尋ねしたいのですけど。

やはり徳川家の小牧山での園遊会とかそういうときに、創垂館はお茶のおもてなしとかで利用されたということで、市民の皆様の茶道に興味のある方、特にうちの文化協会で行きますと茶道連盟とかはすごく創垂館を、もう本当にすばらしい、尊い場所だというふうな感覚でいるんですね。

今ちょうど、1月15日から3月15日までの予定で修復工事ということでうたつてありますけど、この工事が完了した後は一般市民にも創垂館は開放してもらえるのかどうかということ、ちょっとお尋ねしたいと思います。

【池田会長】

一般市民開放の計画の有無ということですよ。

【事務局（浅野係長）】

創垂館ですね、今やっております改修工事も含めてですけれども、こちらは青年の家の附属設備ということで、私ども小牧山課の所管ではございません。こども未来部のこども政策課のほうの所管になるものですからちょっと正確なお答えはできないかもしれませんが、もちろん附属設備として今まで使っていたものが少し利用停止ということですので、今直していますけれども、改修が終わった暁には当然市民の皆様にも使っていただけるように。直したから入ってだめだよということではなくて、今までどおり利用していただけるようになるかと思います。

以上です。

【川島委員】

ありがとうございます。

【池田会長】

市民開放の可能性もあるということですね。

ありがとうございました。

ほかにご覧いませんか。

それでは、この件についてはここで終わりにさせていただきまして、次の3の(2)今年度の事業計画について、こちらを事務局から説明お願いいたします。

【事務局（小野専門員）】

今年度の事業計画について、その1の今後の整備スケジュールにつきまして、担当の小野よりご説明させていただきたいと思います。

お手元の資料2-1をご覧ください。また、順次、併せて裏面にあります図面等もご参照いただけましたら幸いです。

史跡小牧山の整備につきましては、この横長の表にございますように、スケジュールに沿って主郭地区の各地区を区分して順次、調査、そして実施設計、そして整備工事という流れを組ませていただいております。今後、この表にありますように令和10年、さらにその先におきましてもスケジュールどおりということであれば、どこかで調査をし、どこかで整備工事が行われるというような、非常に気の長いスケジュールを組ませていただいております。

ただ、この表だけですと、どこの何をどうやっているのか多分全くわからないと思いますので、まずは全体の流れから、こちらの投影のものでご説明をさせていただきたいと思います。

平成10年度に策定しました小牧山の全体の整備計画を定めました基本構想で、この小牧山の中を大きく3つのゾーンに分けております。1つが、まず城郭展示ゾーン、この青い色でくくっている部分でございます。もう1つが、史跡緑地ゾーン、そして3つ目が史跡園地ゾーンという、3つのゾーンです。

青で示させていただいている城郭展示ゾーンという部分は、石垣をはじめ曲輪、そして土塁など、戦国時代の信長、そして家康がお城として使っていた時期の遺構が非常によく残っている部分で、そういった遺構を展示することに主眼を置いた整備をしていきたいと思いますという方針を定めているエリアです。

それに対しまして、史跡緑地ゾーンというのは、この山の斜面を中心にした、濃い緑色で塗らせていただいているエリアでございます。この部分は基本的に斜面でして、皆さんも見ただければわかりますけれども、非常に緑が濃く、豊かな自然を有している部分でして、小牧山のもう一つの魅力でもあります、都市部においても非常に豊かな自然を有しているというその魅力をこの部分で保持していこうと考えているエリアです。

また、史跡園地ゾーンにつきましては、麓の山麓部、そして旧市役所本庁舎跡地などが該当しておりますが、この部分は皆さんにアクセスしていただきやすい部分でもありますので、多くの方に公園的な利用、それからイベント等での利用を目標に整備を進めていくという方針を立てさせていただき、実際に整備が完了しております東側の帯曲輪エリアは、市民まつりや夢夜会といった大規模なイベント等にも対応しているところでございます。

そんな中で、現在進めさせていただいておりますのは、城郭展示ゾーンのうち赤で囲わせていただいております主郭地区というエリア。まさに小牧山の本丸に相当する山頂の主郭を含む、お城でいえば心臓部に当たるところで、遺構の残存状況も非常にいい場所になります。当然、全域が城郭展示ゾーンに含まれるということになります。その部分をアップにしたものがこちら。皆様のお手元の資料、表をめくっていただきました次のページの下の図がこちらになります。お城全体からいきますと、この赤く枠をした部分をこの図でアップにしているとご理解ください。

様々なゾーンの名称がありまして、AからGゾーンまで区分しております。そのうち、主郭と言われる山頂の石垣を含む山頂部がピンク色で真ん中にご覧いただけますAゾーンという部分で、近年までずっと調査を行ってきましてのはほとんどAゾーン

の中ということです。なので、城郭展示ゾーンの中の主郭地区の整備は、さらにもう少し広い範囲が対象になっているのだけれども、現在予定が立っているのはほとんどAゾーンの中であり、現在進んでいるのはAゾーンの中の調査や整備ということになるかと思えます。

続きまして、そのAゾーンを中心とした主郭の基本計画でございます。

このように小牧市歴史館を中心に置いて、その斜面の部分にある石垣や曲輪の配置を、当時の推定できる動線に従って、このように昔の人は道を使って歩いていたんだな、このように石垣を見上げていたんだなというラインを推定して整備を計画しております。これを一気にやってしまうと、当然その間、歴史館の利活用もできなくなってしまいますし、石垣を積む工事は、文化財的な石垣という意味でも手数がかかるということで、1年間にやれる面積とか物量というのは非常に限られます。ということで、小牧市では、このAゾーンについてはこのように5つのパーツに分けて、今年から順次整備工事を行っていくという計画を立て、進めてまいっているというところになります。

先ほどの報告と今年度の計画で後ほどご報告させていただきますが、一番奥、これは整備した作業道がここまで来ているわけですが、車両はこのように入ってきますので、この主郭の部分に触ろうとすると、車両の通行の出入りから考えると奥から仕上げていくのが物理的に妥当性が高いということですので、奥の5工区から手をつけ、順次、1工区、2工区、3工区、4工区という順番で工事を進めていこうというふうにしております。その間、小牧市歴史館へのアクセスは確保することを目標に、このような工程にさせていただいております。

再度表のほうにお戻りください。

表の左側には史跡小牧山整備事業、次の枠に主郭整備と主郭地区整備と大きく分けさせていただいております。Aゾーンが主郭整備、そしてBからF・Gゾーンまでが主郭地区の整備ということになっておりまして、現在、Aゾーン、この部分の整備が大きく動いているところですが、今後の整備に向けましては、先ほどお示しましたゾーニング図のBからGゾーンまでということで、中心のピンク色ではない周辺の主郭地区の部分が整備の対象に将来的になっていくという計画をこちらの表でお示しさせていただいております。

なお、先ほど報告させていただきました管理道部分の実施設計が昨年度終わっておりますが、整備工事につきましても、この表にございますように、令和4年度に管理道部分の整備工事というのは実施させていただく予定を組ませていただいております。

整備のスケジュールについての報告は以上です。

【事務局（浅野係長）】

引き続きまして2番目ですが、史跡小牧山整備計画基本構想の改訂についてご説明をさせていただきます。

資料は資料2-2になります。

小牧教育委員会では、先ほどもご説明申しましたが、令和2年3月に史跡小牧山の保存、管理、活用、整備、運営体制の整備の最上位計画となります史跡小牧山保存活用計画を策定いたしました。史跡小牧山保存活用計画の策定を行うまでは、小牧山全体の整備の方向性を示すものとしまして、保存活用計画の下位計画に位置づけられます、平成11年3月に策定しました史跡小牧山整備計画基本構想というものを整備のよりどころとしておりました。

この令和2年3月に策定しました保存活用計画の策定について、文化庁との協議の中で、当初は、歴史館の周辺の発掘調査が一段落をし、整備工事が完了した後、先ほどご説明しました山頂部分、歴史館の周りの整備工事が終わった頃に行う予定でしたが、先ほども報告しました創垂館の改修ですとか屋外トイレの改築等々、小牧山の中にあります既存施設の修繕の必要が出てきたこと、また、文化庁の考え方としまして、文化財の保護、保存のみではなくて、活用も視野に入れた保存活用計画の策定をするよう指導を受けたことから策定をいたしました。

今回改訂を行います史跡小牧山整備計画基本構想に基づきまして、これまで小牧中学校の跡地ですとか市役所本庁舎跡地の史跡整備、また小牧山の歴史や自然を紹介するガイダンス施設であります小牧山城史跡情報館れきしるこまきの建設も行ってまいりました。平成25年には、小牧市みどり公園課が小牧山樹木整備基本計画、平成31年には小牧山樹木整備基本設計を行うなど、樹木の維持管理についても方針を定めてまいりました。

しかしながら、基本構想は先ほど申しましたように策定から20年以上は経過しておりまして、基本構想の策定以前に建設された施設の老朽化ですとか史跡整備済みの区域の増加、歴史館周辺における発掘調査成果による新たな知見の増加などにより、史跡小牧山をめぐる状況は、策定時、平成11年3月の策定時と大きく変わっております。

このため、令和2年3月に策定しました史跡小牧山保存活用計画との整合性を図りつつ、これからの史跡小牧山の整備のより具体的な方向性を定めるため、基本構想の改訂を行おうとするものであります。

説明は以上になります。

【事務局（小野専門員）】

続きまして、主郭地区第2工区の整備実施設計についてご報告をさせていただきたいと思います。

資料2-3をご覧ください。

先ほどの工区割り図を、再度こちらにお示しさせていただいております。

第2工区につきましては、お手元の資料の部分はこちらに該当する、南西に当たる部分です。この部分は、下からつづら折りで上がってくる園路の上半分ぐらいに当たっておりまして、これは当時も恐らく小牧山城に至るメインルート、大手道に該当する部分でして、一部調査をしたところ、非常に大規模な、そして作り込まれた道が当時設計されて、実際に使われていたのではないかと推定されつつある部分ですので、ある意味、小牧山城の山頂に至る、顔になる部分になってくるかと思います。その部分についての実施設計を今年度進めさせていただく予定であります。

続きまして、ページをめくっていただきまして、主郭地区第5工区整備工事についてご報告をさせていただきます。

第5工区は、こちらの前のページで申しました青く塗られております北側の尾根部分です。最初のところで今後のスケジュールでもご説明しましたが、取り付きの一番奥の第5工区から今年度いよいよ整備工事に入っております。この部分につきましては、過去の調査で3段の石垣が見つかっておりまして、その部分についても保護しながら、そしてまた当時のオリジナルのものを、なるべく皆さんに実際に本物を見ていただけるような整備を目指して準備を進めているところです。

今後、その後、第1工区、第2工区というふうに整備工事は進んでまいりますが、その都度その都度、どのようにその工事期間中に整備済みのエリアにアプローチできるか、またはその期間一部通り抜けができないなど、迂回、それから通行止め等が発生することが推定されます。整備完了後までしばらくご不便をおかけしますが、ご了承いただければと思います。

最後になります。主郭地区第2・第3工区の発掘調査についてです。

今年度につきましては、現在、お手元の資料でお示しさせていただいております、赤い楕円形で塗らせていただいている範囲のうち100平米程度を調査させていただこうと考えております。前の図面でいきますと、ちょうど第2工区と書かれている、このあたりがその場所に該当します。今後、この部分が実施設計をするに当たって、

まだ少し石垣の展開などきっちり抑えなければいけない部分を、最小限の範囲について今年度も調査を進めさせていただこうと考えているもので、夏から年内ぐらいを調査期間として調査を行う予定であります。

今年度の事業計画につきましては以上です。

【池田会長】

ありがとうございました。

それでは、何かよくわからないことがありましたらご発言ください。

【水野委員】

発掘調査について、前は第 13 次という呼び方、13 次になっていますよね。今度は、事業計画では主郭地区第 2・第 3 工区発掘調査という言い方をしていますよね。本来ですとこれが 14 次になると思うんですけど、この関連性は、工区の発掘調査と第何次という関連性についてお聞きしたいです。

【事務局（小野専門員）】

今まで 13 か年行ってきたものを 13 次というふうにカウントしていて、今年度のものが続きの 14 次にならないのはなぜか、その関連性はどういう意味なのかというご質問だったかと思います。

去年までの第 13 次までの調査というのは、一応この周辺の、山頂の一周するであろう石垣を順次、この部分この部分ということで、結局 13 パーツに分けて順次調査をしてわかってきた部分が、計画的に調査を進めてきたのが去年までの第 13 次間の調査です。

今年度以降、小規模な調査を 2～3 か年進めさせていただこうとしているのは、一旦一周はしたんだけど、恐らくこの整備工事を、整備の設計をしていく中でどうしても宿題として残っていたり、これを調べないと設計やら工事ができませんよという積み残しの調査、補足調査に相当する調査をこの 2～3 か年で工事の設計と並行してやらせていただくということなので、どちらかという、計画されて 13 パーツに分けて一周回したというよりは、その後のパッチで当てていくような調査を少しフレキシブルに行わせていただきたい。

これは、恐らく整備を、実際に工事であるとか設計を進めていく中で、専門委員会の先生方や文化庁のご指導をいただきながら、現状この部分を計画はさせていただいて、おおむね専門の先生方にもお認めいただいているところではあるんで

すけれども、多分その計画どおりにはいかないというか、ここも調べたほうがいいんじゃないかあそこも調べたほうがいいんじゃないかというのが随時出てくる場合に備えて、何次というようにカウントができない可能性がありましたので、工区ごとの調査というように区分けをさせていただいて、上げさせていただいております。

よろしいでしょうか。

【水野委員】

はい、わかりました。

【池田会長】

それでは、特にないということで、一応ここまでで報告は終わらせていただいて、次のその他というところへ移ります。事務局から何かありますか。

【事務局（武市課長）】

それでは、次回の第6回の本審議会の予定でございますが、本日報告させていただきました今年度の計画事業の成果を皆様にご確認いただけるよう、新型コロナウイルスの感染状況も見ながら、今年度末に開催をさせていただく予定をしております。また追って日程調整の照会をかけさせていただきます。よろしく願いいたします。

【池田会長】

ありがとうございました。

それでは、今日の次第が一応終わりましたので。

その前に、事務局から以外のことで皆さん方から何かありましたらお願いします。

【宮田委員】

山頂の話は説明を受けたのですが、私が中学校の頃、御幸橋ですかね、あれ出たすぐの左側に馬隠しみたいな土手があったはずですが、そういうものはもう復元されないのでしょうか。

【事務局（小野専門員）】

今ご指摘があったのが多分、ここが御幸橋ですので、ここだと思っております。

【宮田委員】

いや、その山へ入ったすぐ。

【事務局（小野専門員）】

ここですか。

【宮田委員】

はい。

【事務局（小野専門員）】

ここは既に整備が済んでおりまして、ちゃんと馬隠しというか、虎口という出入り口なんですけども、既に旧小牧中学校のエリアを平成16年度までで整備させていただいたときに、今、これ本当にその整備後の形状になっていますけれども、鉤の手に土のラインが出ていると思いますが、これが馬隠しというか虎口の形状ということで、整備をもう既に終えております。

【宮田委員】

あれは木の歩道みたいなのはあるんですけど、それじゃなくて、土塁みたいな感じでどんとあつたはずなんですけど。

【事務局（小野専門員）】

ここも実際そのときに、整備前に発掘調査をしまして、歩く場所、今はウッドデッキになっていると思うんですが、発掘をしたところ、あのウッドデッキより多分2～3メートル以上当時の地面が下がるということを確認しております。

恐らくその後、中学校とかで通ったときに、その前にどーんとあつたっていうのはこの土塁だと思います。実際の当時の地形と、それから中学校で利用していたときの地形が、土塁の残存は利用されていると思うんですけれども、実際に掘るともっともっと当時の虎口として使っていたときのほうが深かったということで、どうしても御幸橋との取り合いというか、高さが全然合わなくなってしまったので、ウッドデッキで、階段とかを経ることなく中に入れるようにということで、観察デッキという扱いであのような、木橋のような形で通れるようにしました。でも、それよりは下がるよという表現をさせていただいているのがこの部分。

なので、どーんと土塁があったというのは、ちょうどこの縦方向に来ているこれで、実際に小牧中学校のときや、それから昭和2年の地形測量図でも残っていることが確認できていた部分ですので、それを踏襲して現在もその形になっています。

【宮田委員】

すみません。ちょっと記憶が。

【事務局（小野専門員）】

土塁はなくなってはおりません。

【池田会長】

発掘されると、前の記憶のものと全然形が変わった形で残っちゃうので、どうしてもそういうイメージになると思うんですけど、昔の、いわゆる昭和とか大正とかそういう時代の形ではなくて、もっと古い、いわゆる信長の、本当に当初にあった形へ戻すというのが基本ですけど、今おっしゃったように高さがすごくあるのでふたをしたような状態になるということになっていて。多分子供の頃にご覧になっていたものは後から作り上げていったものなので、それは多分取り除かれているんじゃないかなと思うので、それは復元という形ではないのではないかなという気はしますが、どうでしょうか。

【宮田委員】

ということは、基本的には、信長から家康の時代の形に戻そうというのが原則ということなんでしょうか。

【事務局（小野専門員）】

基本的にはそれが原則です。

ただ、先ほど言ったように、城郭展示ゾーンではよりそれが積極的になりますし、史跡園地ゾーンというところは利活用も踏まえた上での考え方になりますので、その濃淡は史跡の中でも生じることになろうかと思います。

【池田会長】

ほかにございますか。

【坪井委員】

初めての参加なものですから、ちょっととんちんかんなことを言っちゃうかもわかりませんが。

昔の城郭の跡だとかそういうのを発掘というのは、それはまたそれで非常に意義のあることだと思うんですね。

私、商工会議所から来ているものですから、いわゆる小牧市というところの小牧山が観光のシンボルというのを言われて、会議所もそういうようなことで動いているんですね。遠くから観光にいらっしゃった方、例えばバスでいらっしゃって、バスの駐車場は整備していただいた。ですけれども、小牧山に上がってくるのに、この道路が結構狭いので非常に危険だと。

歩道を作るとか、それから、バスの駐車場のほうから山に上がっていけるような整備だとか、そういうようなことはこの会議では基本的には審議も何もしないということでしょうかね。これは基本的には整備。

【池田会長】

バスから上がってきて小牧山を見学するルートというか、ルートの足場というか、そういうところですよ。

【坪井委員】

そうですね。

【事務局（伊藤部長）】

確かに、今これだけ小牧山が発掘されて、結構関心が高まってきている中で、観光もこれからどんどんやっていかなきゃいけないと思っています。

小牧山の駐車場が、西のほうにバス専用駐車場がございます。それから小牧山北駐車場とあります。あと市役所の駐車場、これは庁舎に用があって来庁された方の駐車場ということですが、ここも使えるかなと思っていますが、れきしるこまき、史跡公園の南口から入っていただく、あるいは大手口から入っていただくとする、やはり駐車場との位置関係というのはあまり今よくない状態なのかなと思います。

これは、小牧山の整備の課題だというふうに認識はしております。ですが、今主郭地区の整備、小野のほうから今説明いたしましたけれども、まずはこれを集中してやっていく。それから、そういう中でも訪問される方はたくさんおられるかと思

いますけれども、それと並行して、あるいはその後にそういったことに力を入れてやっていきたいとは思っておりますので、よろしくお願いします。

【池田会長】

昨年も、前日も駐車場の話が出ていたと思うんですが、普通の日というかウィークデーはこの駐車場が市の、いわゆる市役所のためのものなんですけれども、土日のときにどうするという方針をちょっと、ちょっとだけ、ちらっと話としてはあったんですけどね。土日にこういうところを閉めちゃうなという話。でも、そこから先がまだ進んでいないので、観光。いわゆる、これは縦割りなので市役所が。この小牧山課とか教育委員会のところでは駐車場の問題は扱えなくて、その担当の何とかっていう課のほうへ持っていくという話までで終わっているんですよ、それは。だから、担当が違うというか。

【事務局（浅野）】

先ほど部長のお話しされましたとおり、市役所の駐車場につきましては、管理しているのは市の総務課でございますけれども、平日ですね、月曜から金曜日に関しましては、この市役所にご来庁される方の駐車場ということで、小牧山をご利用される方であれば、一般の車であれば小牧山の北の駐車場をご案内してほしいと、バスであればバス駐車場のほうをご案内してほしいということを聞いております。

ただ、土曜、日曜日ですね。日曜開庁もありますけれども、土曜、日曜につきましては市役所お休みですので、そのときには使っていただければいいかと思えます。主に観光の方々も多くは、一般の方は土日のほうが多いかなと思えますし。バスはどうしてもあちらの専用駐車場じゃないと、この市役所のほうは止めちゃいけないということになっておりますけれども、そういったことをご案内しておりますので、必ず止めちゃいけないというわけじゃないんですけれども、そういった形で運用しているということです。

今、旧本庁舎、この赤で示してある、こちらのほうが、実は管理用車両が入れるように整備してございます。そこで人が集まって解説を受けたりとかして、山を上がって行ったりとかれきしるに行こうという場所になっておるんですけれども、一応入口両側に車止めがございますけれども、観光のバス程度であれば中に入ることも可能となっております。

なので、前は、市役所の本庁舎のところのロータリーにバスが来てお客さんが降りてということがあったんですが、今は巡回バスのバス停になっていまして、そこ

はもうバスの乗り入れはだめだよということになりましたので、小牧山をご利用される観光の方がおみえになったときには、旧本庁舎のところに乗り入れをしていたくことになります。どうしても車止めがありますので、職員なり担当の者が開けて下げてということが必要になりますけれども、事前にご連絡いただければ、そこで降りていただいて安全に上っていただく、れきしるなり歴史館に行ってくださいこともできるかと思えます。そのような運用も実際に行っておりますので、よろしくをお願いします。

【坪井委員】

ありがとうございました。

【池田会長】

ほかによろしいですか。

それでは、今日の議題はこれで終了いたしましたので、事務局にお返ししたいと思います。

【事務局（武市課長）】

池田会長、ありがとうございました。

以上をもちまして本日の議事日程は全て終了いたしました。慎重な審議をありがとうございました。

これをもちまして第5回史跡小牧山整備計画審議会は閉会をさせていただきます。

この後、小牧山の創垂館保存修理工事の現場、それから昨年度行いました桜の馬場の屋外トイレ、作業道整備工事状況の現地視察のほうにご案内させていただきますので、職員の案内に従いましてご移動をお願いいたします。